【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】令和3年12月23日(2021.12.23)

【公表番号】特表2021-506253(P2021-506253A)
【公表日】令和3年2月22日(2021.2.22)
【年通号数】公開・登録公報2021-009
【出願番号】特願2020-532561(P2020-532561)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｑ　1/68　(2018.01)
Ｇ０１Ｎ　33/53　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/543　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/10　(2006.01)
Ｃ１２Ｑ　1/6813　(2018.01)
Ｃ１２Ｍ　1/00　(2006.01)
Ｃ１２Ｍ　1/34　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｑ　1/68
Ｇ０１Ｎ　33/53　ＺＮＡＭ
Ｇ０１Ｎ　33/53　Ｄ
Ｇ０１Ｎ　33/543　５７５
Ｃ１２Ｎ　15/10　１００Ｚ
Ｃ１２Ｑ　1/6813　Ｚ
Ｃ１２Ｍ　1/00　Ａ
Ｃ１２Ｍ　1/34

【手続補正書】
【提出日】令和3年11月12日(2021.11.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
基材上の分析物の分析のための方法であって、前記方法は以下の工程：
（ａ）分析物を含む水性二相系（ＡＴＰＳ）を提供する工程；
（ｂ）前記分析物をＡＴＰＳの第１の相の中に濃縮する工程；および
（ｃ）前記第１の相を基材に接触させる工程
を含む、方法。
【請求項２】
前記第１の相を第２の相から分離する工程をさらに含む、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記第１の相の中の前記分析物の濃度が、前記第２の相の中の前記分析物の濃度の少なくとも約１０倍である、請求項２に記載の方法。
【請求項４】
前記第２の相の体積が、前記第１の相の体積の少なくとも約１０倍である、請求項２に記載の方法。
【請求項５】
前記基材上に固定化された捕捉プローブによって前記分析物を捕捉する工程をさらに含

む、請求項１に記載の方法。
【請求項６】
検出可能に標識されたクエリープローブと前記分析物との会合および／または解離の反応速度論を分析することによって、前記基材上の前記分析物を検出する工程をさらに含む、請求項１に記載の方法。
【請求項７】
前記基材上の前記分析物を単一分子感度で検出する工程をさらに含む、請求項１に記載の方法。
【請求項８】
前記ＡＴＰＳを提供する工程が、第１の組成物と第２の組成物との混合物であり、当該混合物への前記分析物を含む水性サンプルの添加に際してＡＴＰＳを形成する第１の組成物と第２の組成物との混合物を提供することを含む、請求項１に記載の方法。
【請求項９】
前記混合物が、固体、ニートの混合物であるか、または固体およびニートの構成要素を含む、請求項８に記載の方法。
【請求項１０】
前記分析物が、核酸、ポリペプチド、代謝物、脂質、小分子、または炭水化物を含む、請求項１に記載の方法。
【請求項１１】
前記分析物を含むサンプルを提供する工程をさらに含む、請求項１に記載の方法。
【請求項１２】
前記サンプルが生物学的サンプルである、請求項１１に記載の方法。
【請求項１３】
前記第１の相が、０．０１～１００ｍｍ^{2}の制限された面積にわたって基材に接触させられる、請求項１に記載の方法。
【請求項１４】
前記ＡＴＰＳが、ポリエチレングリコール（ＰＥＧ）およびクエン酸塩を含む、請求項１に記載の方法。
【請求項１５】
前記ＡＴＰＳが、ＰＥＧ、クエン酸塩、および塩を含む、請求項１に記載の方法。
【請求項１６】
前記分析物を含む前記サンプルを加熱すること、および／または前記分析物を含む前記ＡＴＰＳを加熱することをさらに含む、請求項１１に記載の方法。
【請求項１７】
混合物中のＰＥＧの質量分率が３０％超であり、混合物中のクエン酸塩の質量分率が２．５％未満であり、そして塩の濃度が０．２５Ｍ超である、請求項１５に記載の方法。
【請求項１８】
前記ＰＥＧの分子量が６００～６０００Ｄａである、請求項１５に記載の方法。
【請求項１９】
前記クエン酸塩が、クエン酸およびクエン酸ナトリウムとして、５．５～８．５のｐＨを提供する比で存在する、請求項１５に記載の方法。